

平成23年度北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

北海道森林管理局大会議室

1月26日(木)

注:氏名欄の○印は代表発表者

順 番	部 門	発 表 題 名 ・ 発 表 者 ・ 発 表 要 旨	時 間 帯
1	森 林 技 術	クマタカが棲む森林での施業の実践例 ～生物多様性の保全に向けて～ 十勝西部森林管理署東大雪支署 ○黒崎 浩之 高橋 智大 内田 貴士 東大雪支署における希少野生動植物の生息情報の蓄積・管理・共有に 向けた独自の仕組み及びこれを活用した森林施業の実践とこれからの展 望	9:00 ～ 9:15
2	森 林 技 術	カラマツ天然更新施業の可能性を探る ～カラマツを伐って、カラマツを増やそう～ 森林技術センター 友田 敦 森林技術センターでは、カラマツ人工林の帯状伐採跡地にカラマツの天 然更新による、植付によらない複層林の育成を図ることを目的とした技術 開発に取り組んできた。その結果について発表	9:15 ～ 9:30
3	森 林 技 術	植栽から 40 年を経た帯状造林地について 日高北部森林管理署 ○藍原 健 山岡 史忠 旧振内営林署時代に技術開発を目指して設定した「指標林」の中から昭 和 45 年に設定された帯状造林地の現況について、主にドマツ植栽木の 生育状況を中心に発表	9:30 ～ 9:45

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
4	森林 技術	<p style="text-align: center;">鶴居村からの林業再生に向けた情報発信</p> <p style="text-align: right;">北海道釧路総合振興局産業振興部林務課 番藤 浩一</p> <p>鶴居村森林組合は、森林・林業再生プラン実践事業の取組みとして、路網整備、林業機械の導入、導入した機械による搬出間伐等を実施しました。今回は事業実施に至った経緯と事業のこれまでの取組み、現在までの検証内容について報告</p>	9:45 ～ 10:00
5	森林 技術	<p style="text-align: center;">樽前山が噴火する日に備えて ～我が署のソフト対策の充実～</p> <p style="text-align: right;">胆振東部森林管理署 ○鈴木 啓之 佐々木 賢治</p> <p>東日本大震災を始めとする自然災害への防災意識が高まっている中、樽前山を管轄する当署では噴火災害時に備えたソフト対策の整備に取り組んでいる。この取組みを通して見えてきた課題とその考察結果を報告</p>	10:00 ～ 10:15
休憩 10:15～10:30			
6	森林 技術	<p style="text-align: center;">コンテナ苗で造るシマフクロウの森</p> <p style="text-align: right;">十勝東部森林管理署 ○三間 武 正 隆義 木田 英一</p> <p>シマフクロウの保護林内からの飛び出しによる交通事故防止対策と給餌池・巣箱の目隠しとして、オオバヤナギの実生と山取りのアカエゾマツをマルチキャビティコンテナを使用し低コストに育苗したコンテナ苗を小面積の植え込み箇所へ植栽したことについての報告</p>	10:30 ～ 10:45

順 番	部 門	発 表 題 名 ・ 発 表 者 ・ 発 表 要 旨	時 間 帯
7	森 林 技 術	<p>ウダイカンバを主とした山づくり</p> <p>北海道日高振興局森林室普及課 塚原 正之</p> <p>日高管内民有林では山火再生林などに、ウダイカンバを主とした天然林が多い。当室では、これら林分からの優良大径材生産を目的とし、平成3年にモデル林を設定しており、調査結果を基に今後の施業について考察</p>	10:45 ～ 11:00
8	森 林 技 術	<p>先輩から受継ぐ森林づくり ～過去から将来の山を描く～</p> <p>十勝西部森林管理署 ○戸口田 タ子 和田 隆太郎</p> <p>トマツ人工林に侵入した有用広葉樹の育成状況を調査し、針広混交林への誘導について分析するとともに、先輩を訪ね話を聞くことから今後の森林づくりを検証したので報告</p>	11:00 ～ 11:15
9	森 林 技 術	<p>これで一目瞭然！わたしの部内の天Ⅰ施業箇所 ～GISとGPSの活用～</p> <p>留萌南部森林管理署 小林 龍雄</p> <p>天然下種第Ⅰ類施業地をGISとGPSを用いて管理することにより、位置情報の的確な把握・任意の属性情報を付与することによる検索機能の充実化が図られると考え検討したことから、その方法と課題を紹介</p>	11:15 ～ 11:30
10	森 林 技 術	<p>「歌オブナ林」は世代交代できるのか？</p> <p>後志森林管理署 ○馬渡 郁弥 井上 純 深川 勝彦</p> <p>ブナ自生北限を代表する天然記念物「歌オブナ林」の現況調査を実施し、この地域の貴重な財産を次代に引き継ぐことができるのか考えてみた。</p>	11:30 ～ 11:45

順 番	部 門	発 表 題 名 ・ 発 表 者 ・ 発 表 要 旨	時 間 帯
11	森 林 技 術	<p>5年でここまでわかった、ブナ林再生手法</p> <p>黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会 ○齊藤 均 新川 幸夫 茂尾 実</p> <p>黒松内岳に元々あったブナ林を再生する目的で、町民有志により2007年に発足した「黒松内岳ブナ林再生プロジェクト」の2011年度に取り組んだ活動報告とこれまでで、わかってきたブナ再生手法の提案</p>	11:45 ～ 12:00
<h1>休 憩 12:00～13:00</h1>			
12	森 林 技 術	<p>低コスト林業の普及に向けて ～コンテナ苗植付功程調査(中間報告)～</p> <p>上川南部森林管理署 ○三浦 英泰 佐々木 健司</p> <p>林業の採算性を向上させるためには、林業経営コストの大部分を占める植付や保育作業について作業効率の改善を図る必要がある。そのためマルチキャビティコンテナ苗を導入し、実証調査した成果について報告する。</p>	13:00 ～ 13:15
13	森 林 技 術	<p>芦別から地材地消を！</p> <p>北海道空知総合振興局森林室普及課 小林 順二</p> <p>活動支援を行ってきた「星の降る里・あしべつ地材地消推進検討委員会」の4年間に及ぶ「地材地消推進活動」の成果として、近郊の市町村に波及効果が現れた。これまでの活動内容と課題を整理したので発表</p>	13:15 ～ 13:30

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
14	森林 技術	<p>のぼれカラフトマス！木製柵による魚道確保への挑戦！</p> <p>網走中部森林管理署 ○森 孝二 大矢 裕紀</p> <p>常呂川水系幌内川にて平成22年度に施工した木製柵による魚道について、工事の計画から設計、施工に至る一連の取組みと魚道完成後の魚類の遡上状況について報告</p>	13:30 ～ 13:45
15	森林 技術	<p>エゾウスユキソウの6年間の観察 ～植物群落保護林における希少植物の保全とモニタリング～</p> <p>(株)さっぽろ自然調査館 ○丹羽 真一 渡邊 修 十勝東部森林管理署 國井 進</p> <p>保護林における希少植物保全のためのモニタリング調査と保全活動の取組みの事例を紹介する。個体数カウント調査や個体群調査の方法とその有効性を示し、他地域への応用についても提案したい。</p>	13:45 ～ 14:00
<h2>休憩 14:00～14:15</h2>			
16	森林 技術	<p>パイロットフォレストの新たな挑戦 ～カラマツ資源の持続的供給に向けて～</p> <p>根釧西部森林管理署 ○中井 泰亮 今野 智之</p> <p>カラマツ資源の持続的供給を目指し、従来の「上木カラマツー下木ドマツ」の複層林造成に加え、「上木カラマツー下木カラマツ」(カラマツによる常時複層林)の施業技術確立を目的としたカラーカラ試験地における現在までの調査結果を報告</p>	14:15 ～ 14:30

順 番	部 門	発 表 題 名 ・ 発 表 者 ・ 発 表 要 旨	時 間 帯
17	森 林 技 術	<p style="text-align: center;">GPSと写真をパッとリンク 撮影場所を特定します！ ～撮影場所特定用のファイルに変換するプログラムの作成～ 空知森林管理署 井貝 紀幸</p> <p>モバイルマッパー6のGPSデータのファイル形式(crw)を一般的な形式(gpx)にパソコン上で変換するプログラムを作成した。変換したデータが写真の撮影箇所の特定に役立つことを紹介</p>	14:30 ～ 14:45
18	森 林 技 術	<p style="text-align: center;">ブナ二次林を見つめて25年 空知森林管理署 瀧口 聡</p> <p>近年、ブナ林の減少で施業が下火になっている中、檜山署管内で25年間にわたって経過観察を行っているブナ施業指標二次林がある。その動態を報告し、今後の育成管理について検討</p>	14:45 ～ 15:00
休憩 15:00～15:15			
19	国 民 の 森 林	<p style="text-align: center;">極寒！豪雪！朱鞠内に新たな森林をつくる！！</p> <p style="text-align: right;">空知森林管理署北空知支署 ○佐藤 昌弘 水上 卓哉 幌加内町産業課 菊地 宏</p> <p>幌加内町の朱鞠内湖上流の未立木地等、機能の低下した森林を整備し、水源かん養機能の増大を図ることを目的として、幌加内町の町有林と一体的に地拵・植栽を行ってきた。その10年間について紹介</p>	15:15 ～ 15:30

順 番	部 門	発 表 題 名 ・ 発 表 者 ・ 発 表 要 旨	時 間 帯
20	国民 の 森 林	<p style="text-align: center;">えりも国有林緑化事業 ～豊かなクロマツ林の課題と未来の森林づくり～</p> <p style="text-align: right;">日高南部森林管理署 ○志田 有里絵 佐藤 将</p> <p>えりも岬の緑化のためのクロマツ造林地は、高密度植栽のため非常に混み合い健全な森林へ導くには維持管理が必要であり、更には、有史以前の自然へ戻すための準備段階としての混交林化、広葉樹の育成が必要である。</p>	15:30 ～ 15:45
21	国民 の 森 林	<p style="text-align: center;">地域と連携して何ができる？ ～「森林・林業再生プラン」実施元年の取組み～</p> <p style="text-align: right;">上川北部森林管理署 ○佐藤 可菜 塚田 信夫 海野 勝也</p> <p>「森林・林業再生プラン」の実施元年にあたり、地元自治体との連携をより一層深めるとともに、「森林管理署が主体的に取組めるものは何か」との観点から、各種の取組みを実施したので、その結果を紹介</p>	15:45 ～ 16:00
22	国民 の 森 林	<p style="text-align: center;">したっけ、知床に来たらいつしょ。</p> <p style="text-align: right;">知床森林センター 石崎 峰孝</p> <p>当施設は、知床世界自然遺産の登録に伴い急増した来訪者へ対応すべく平成20年5月にその入口であるウトロ地区に設置された。それから3年。施設運営の見直し及び将来に向けた改善のための検討を行った。</p>	16:00 ～ 16:15

順 番	部 門	発 表 題 名 ・ 発 表 者 ・ 発 表 要 旨	時 間 帯
23	国民 の 森 林	<p style="text-align: center;">積丹町と歩む新たな森づくり ～北海道初の共同施業団地～</p> <p style="text-align: right;">積丹町農林水産課 ○西川 源 成澤 直人 (独)森林総合研究所森林農地整備センター 松村 伸治 石狩森林管理署 大江 幸則</p> <p>隣接する町有林分収造林地と国有林において共同施業団地を設定する協定を締結し、森林施業の効率化・低コスト化を目指した作業路網の整備を進めるなど、民・国が連携して進めてきた森林整備の取組みなどについて発表</p>	16:15 ～ 16:30
24	国民 の 森 林	<p style="text-align: center;">国民目線の国有林を目指して ～国有林入林者の実態から考えるPR活動～</p> <p style="text-align: right;">空知森林管理署 ○三ツ山 厚次 土井尻 康輔</p> <p>本年度は林道ゲートや鍵の取扱いについて大きく変更があった。当署においても、林道ゲートの鍵が変更されたところであり、鍵の変更に伴う入林者の動向や傾向について調べ今後の国有林のPRに利用できないか考察</p>	16:30 ～ 16:45
26日(1日目) 終了			

18:00～19:00

懇親会(大会議室)

平成23年度北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

北海道森林管理局大会議室

1月27日(金)

注:氏名欄の○印は代表発表者

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
25	森林 ふれ あい	<p>貴重なイチイ純林をエゾシカから守ろう！</p> <p>根釧東部森林管理署 ○樋口 雅俊 田中 宣憲 佐藤 秋仁</p> <p>当署管内にある「イチイ純林保護林」は昨冬、エゾシカによる食害等でおよそ4割のイチイが被害にあったため、その対策として行った活動内容等について報告</p>	9:30 ～ 9:45
26	森林 ふれ あい	<p>人を育て、森林を活かす ～オホーツクの森自然再生モデル事業の取組み～</p> <p>常呂川森林環境保全ふれあいセンター 佐々木 英樹</p> <p>オホーツクの森において、当センター主催の「森林づくり塾」などのイベントを通じ、地域住民らが自らの里山的感覚で森林作業等を行いつつ、自然再生モデル事業と係わっている状況及び今後の方向性についての一考察</p>	9:45 ～ 10:00
27	森林 ふれ あい	<p>中チャンベツ発！学校林「るんるんフォレスト」で楽しく遊ぼう！</p> <p>釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター ○舟橋 聡 標茶町立中茶安別小中学校 山内 正樹</p> <p>標茶町立中茶安別小中学校では学校林「るんるんフォレスト」を活用している。また、当センターでは当該活動の講師として協力・支援を行っており、その内容等の報告</p>	10:00 ～ 10:15

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
28	森林 ふれ あい	<p>我が町の森林(もり)を未来に託す ～みんなでつなぐ森林と人との結びつき～</p> <p>網走西部森林管理署西紋別支署 ○瓜田 元美 滝上町役場林政商工観光課林政係 川原田 耕基</p> <p>国際森林年を契機に西紋別支署・滝上町・滝上町森林組合・地元林業業界等地域一体となって人と森林との関わりを育むことを目的とした「滝上みどりの森林推進協議会」を設立。主な取組みとして今年度実施したイベントと今後の活動の検討について報告</p>	10:15 ～ 10:30
<h2>休憩 10:30～10:45</h2>			
29	森林 ふれ あい	<p>森林づくりで異文化交流 ～国際ワークキャンプ8年の歩み～</p> <p>大沼マイルストーン22 ○今野 あすか 駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター 松田 清</p> <p>平成16年から受け入れている国際ワークキャンプでの取組みと駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンターのモデル事業地で実施してきた森林作業の取組みについて紹介</p>	10:45 ～ 11:00
30	森林 ふれ あい	<p>トンボで診断します、湿地の健康</p> <p>北海道札幌旭丘高等学校 ○内田 葉子 ○関口 絢子</p> <p>トンボは種類によって生息環境が異なるため、トンボ相を調べることで水辺の環境がわかると考え、自然再生の過程をトンボ相から分析しました。3年間の調査から、今後のトンボ相の変動について考察</p>	11:00 ～ 11:15

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
31	森林 ふれ あい	<p style="text-align: center;">野幌自然休養林 台風後の状況について</p> <p style="text-align: center;">石狩地域森林環境保全ふれあいセンター 森本 和則</p> <p>札幌市の貴重な都市近郊林である野幌自然休養林は、平成16年に本道を襲った台風により被害を受けました。この被害地において市民と協働で行う森林再生を行っており、その一環として実施している「野幌自然環境モニタリング調査」の5年経過後の成果について報告</p>	11:15 ～ 11:30
受賞 発表	<p style="text-align: center;">郷土種による緑化の考察</p> <p style="text-align: center;">～北海道に自生する野草の種子を 使用した法面緑化の取組み～</p> <p style="text-align: right;">留萌北部森林管理署 星 雄介</p> <p>生物多様性の保全に配慮した緑化工法を確立するための試みとして、林道新設工事における法面緑化の材料に、北海道で自生する野草の種子を使用し、同工法の確立に向けた課題等を把握する取組みについて調査、検証を行ったので報告</p> <p style="text-align: center;">(第47回 林道研究発表会 最優秀賞受賞)</p>	11:30 ～ 11:50	
	<h1>休憩 11:50～13:00</h1>		

順番	部門	発表題名・発表者・発表要旨	時間帯
1	特別発表	<p>北海道における木質ペレットの品質管理に関する取組み</p> <p>(地独)北海道総合研究機構 林産試験場 利用部 山田 敦</p> <p>木質ペレットの需要を拡大するためには適切な管理のもとで品質の安定化を図ることが不可欠である。そこで北海道で製造された木質ペレットの品質を調査するとともに簡便な品質管理方法を検討したので報告する。</p>	13:00 ～ 13:25
2	特別発表	<p>エネルギー資源作物としての樹木の利用 —ヤナギの利用—</p> <p>(独)森林総合研究所北海道支所 ○宇都木 玄 上村 章</p> <p>北海道の木質エネルギー資源作物として“ヤナギ”が注目されている。木質系は草本系に比べて長期的な栽培計画が可能である特徴を持つ。本報告では、超短伐期ヤナギ栽培技術の開発と今後の問題点について整理する。</p>	13:25 ～ 13:50
3	特別発表	<p>林地残材の地域需要に対する供給可能量を考える</p> <p>(地独)北海道総合研究機構 林業試験場 森林資源部 酒井 明香</p> <p>木質バイオマスの需要が増えたことから、林地残材の需要も増えていきます。今回は旭川市内の需要地に対し、効率的に運搬できる範囲に林地残材が、どれだけあるかを傾斜や路網を考慮しながら考えてみました。</p>	13:50 ～ 14:15
4	特別発表	<p>バイオマス生産用ヤナギ類の優良品種選抜の取組み</p> <p>(独)森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 ○矢野 慶介 福田 陽子 田村 明</p> <p>地球温暖化対策の一環として、バイオマスエネルギーの活用が求められている。本発表では、オノエヤナギとエソキヌヤナギを対象に、成長量や容積密度などに優れた品種選抜の取組みを紹介する。</p>	14:15 ～ 14:40
<p>休憩 14:40～15:00</p>			

15:00～15:50

◎特別講演

『森林バイオマス最新動向と
導入のヒント』

株式会社 森のエネルギー研究所
代表取締役 大場 龍夫 氏

【ポスター展示】 1階ウッディホール

◎積丹町

◎幌加内町

◎(株)さっぽろ自然調査館

◎北海道札幌旭丘高等学校

◎知床森林センター

◎滝上町・網走西部森林管理署西紋別支署